

[ホーム](#) > [眼鏡旬人](#) > スキーと人がつなぐ 生きる勇氣

スキーと人がつなぐ 生きる勇氣

Taiki Mori

ベストな視力が滑りを変えた



「その時の記憶がまったくないんです。気がついたら道路の端に倒れていて、後から走ってきた先輩に声を掛けられて意識が戻ったんです。その時先輩は『上半身が180度反対を向いていたんだぞ』といわれまして・・・」

高校2年生の時、期末テストを終え、友人らと共に出掛けた奥多摩でのツーリング中に起きた単独事故だった。脊髄損傷という後の人生を大きく左右しかねない大事故であった。母親から「足が動かなくなってしまうことは大したことじゃない。ただ足が動かなくなったことで、お前の性格が変わってしまうことが一番辛

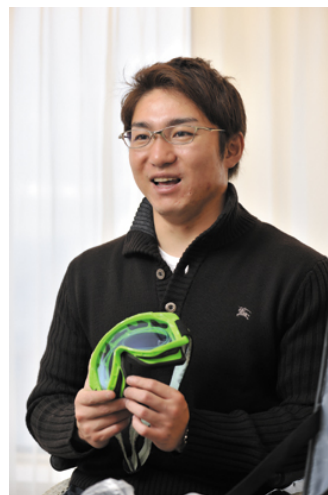
い」という言葉に支えられたが、現実は厳しい。リハビリを続けていた時、テレビ中継に映し出されていた長野パラリンピックに出場していた選手の笑顔が、森井さんの今後を決定づける。それがスキーであった。

実は、森井さんは幼少の頃からスキーと親しんできた。初めの頃は家族のレジャーとして楽しんできたが、競技志向へとステップアップし、高校時代はインターハイを目指すほどの腕前だったという。スキーという競技に再び助けられる形となる。一時、見せる立場であった森井さん自身が、そのスポーツのいち観客として魅了され、再び選手としての道を歩む。しかもチェアスキーを始めたその日から滑走ができるようになったというから驚き。まさに森井さんはスキーの申し子だ。

すぐさま日本トップの実力を備えたが、世界の壁は厚かった。肉体改造が奏功し、トリノ・パラリンピックの大回転で銀メダルを獲得。そして、さらに森井さんの滑りに磨きかけたのが視力改善であった。

「まさに別世界でした。度付き矯正したインナークリップを付けて見ると、遠くの旗門や雪面の状況がはっきりと確認できるんです。遠くの状態がよく見えるので対応能力は飛躍的に上がり、ラインの修正も見違えるほどラクに行えるようになったんです。完走率が上がり、これまでギャップにはまって吹き飛んでしまう不通過がしばしばあったんです。視力に原因があったことを、このインナークリップを付けた瞬間に理解できたんです。過大評価ではありません。それが微妙な差であれば成績表をお見せしないとイケないのですが、その必要がないほど差があるのですから」

森井さんは多くのサポーター達の支援に応えるためにも滑り続ける、悲願の金メダルに向けて。その勇姿は障害を持つ人に勇気を、そしてユニバーサルな社会の実現に向けた無言のメッセージでもある・・・続きは是非、本誌！



Contents

[眼鏡旬人 top](#)
[過激モードのスイッチ役](#)
[自然の偉大さが育む生きる力](#)
[ビーチで誓う五輪の舞台](#)
[仕事と趣味の両輪を司るメガネの力](#)
[メガネで絵を客観視する](#)
[スキーと人がつなぐ 生きる勇氣](#)
[五感で自然を感じるトレイルランニング](#)
[多くの人にシンクロの世界を伝えた](#)
[い](#)
[スポーツで明るく元気に！](#)
[アイウェアと共に歩む人生](#)
[レンズ1枚あるだけで表情が変わる](#)
[カメラの向こうの顔が見えるんです](#)
[専用SGはプロに欠かせないワーキング](#)
[ギア](#)
[目的は変わっても大切さは変わらない](#)
[い](#)
[自然が育む好奇心](#)
[熊本マリ](#)
[絹代](#)
[井出有治](#)
[唐橋ユミ](#)
[ラモス瑠偉](#)

profile

もりたいいき 1980年7月9日、東京都あきる野市生まれ。幼少の頃からスキーと親しみ、高校時代はアルペンスキーでインターハイを目指すも、オートバイの事故で脊髄損傷に。入院中にテレビ中継されていた長野、パラリンピックの選手の笑顔に救われ、チェアスキーへの道を歩む。わずか7日間の滑走を経験するだけで大会に出場するなど、非凡な才能を開花。バンクーバー・パラリンピックではアルペンスキーチームの主将を務め、自身も2種目で銀、銅を獲得。所属は富士通セミコンダクター。

[オフィシャルブログ](#)

